

障がいに対する理解を深める研修・啓発活動講師団ニュース

～障がいの有無にかかわらず、お互いに思いやり、

支え合う社会をつくるために～



市職員（臨時・非常勤職員）を対象に研修会を開催し、109人が参加しました

研修の概要

市職員のうち、臨時・非常勤職員を対象に、「ともに生きる条例」について理解する職員研修を行いました。

令和元年12月16日（月）～17日（火）の2日間で4回開催し109人の職員が参加しました。



研修メニュー

今回の研修は、次のメニューで行いました。

(1)ともに生きる条例について（障害福祉課説明）

ともに生きる条例の内容、合理的配慮の考え方、合理的配慮実践例の紹介など

(2)障がい当事者が置かれている状況（講師団講師）

実体験に基づき、障がいのある人の生活の困難さや必要な配慮などについて説明

(3)体験

車いすに乗車して段差を越える体験、アイマスクをつけて移動する体験

受講者の声

この研修を終えてのアンケートに多かった感想として

- ・障がいの種別毎に配慮が必要だと感じた。
- ・障がいのある方の日常の困りや気持ちを直接聞いたことで状況をより知ることができた。
- ・理解できているようで出来ていないことが多くあった。
- ・知識として知っているつもりだったが、全く知らないんだと気づけた。
- ・困りはそれぞれ違うので、一人一人に必要な配慮は何かを
- ・相手の方がどういったことで苦労するかというのをイメージしながら対応にあたりたい。

講師による講義

今回は、次の7人の講師の方にお話をいただきました。

阿部 留理子さん（内部障がい）

柴田 悦子（聴覚障がい）

佐藤 紘造さん（精神障がいのある人の親）

大野 有香さん（精神障がい）

湯澤 純一さん（視覚障がい）

それぞれの実体験を基にしたお話や、今後の福祉に関する期待、合理的配慮についてのお願ひ、ご自身がいかにして今後障がいと向き合っていくかなど、いろいろな視点から個性ある講話をしていただきました。

阿部さんからは、障がいを隠していた時期もあったが、何事にも挑戦し、日々笑って過ごす前向きな姿勢や、周囲との繋がりが生きていく上で大切であるとお話していただきました。



湯澤さんは盲導犬に出会い社会参加が出来るようになり、障がいの特性や合理的配慮、ともに生きる条例の取組について、これまで取り組んできた幼稚園・小中学校等での啓発活動を今後も継続していきたいという思いをお話いただきました。



発行：別府市福祉共生部障害福祉課

E-mail:haw-hw@city.beppu.lg.jp

TEL:0977-21-1413 FAX:0977-22-1780